

工業蒲田

東京 都電蒲 機
行田 7業及編
所目 29番地 8
1組 3合
2同人 員会
行委 員藏
部憲 所~ 2
刷大 橋 9~ 2
堂新 橋 印 所

今に集中して生きる

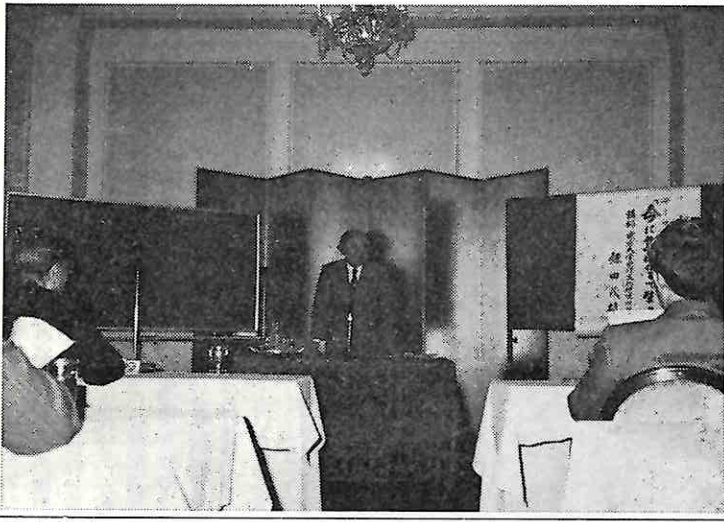
東京大学東洋文化研究所教授 鎌田 茂雄

継続は力なり

今日には宮本武蔵や道元などの武蔵のイメージとしても余りよく話を申し上げ、それを通じて最後 ありません。
また、武蔵の死後、弟子たちがかといふことを申し上げてみたいと思ひます。
宮本武蔵という人はよくわからぬ人、吉川英治の宮本武蔵をお読みになった方がおられると思ひますが、あれは小説であって史実によるものではありませぬし、よいのではないかと思ひます。

「今に集中して生きる」

鎌田茂雄氏



では、宮本武蔵を知るにはどうしたらよいかと申しますと、なにもしなす、彼が死ぬ二年前に書いた五輪書の序文に自分のことを簡明に書いています。それだけか信用できるものがないのです。
それは、その序文にどんなことが書いてあるかと申しますと、「我若年のむかしより兵法の道に心をかけ十三歳にして初而は当流有馬喜兵衛といふ兵法者に勝り、十六歳にして但馬国秋山といふ強力な兵法者に打勝つ、廿一歳にして都へ上り、天下の兵法者にあひ、数度の勝負をけつといへども、勝利を得ざるといふ事なす。其後国々所々に至り、諸流の兵法者に行合ひ、六十余度勝負すといへども、一度も其利をうしなはず、其程、年十三より廿八、九迄の事也」とありませぬ。

ですから、京都の將軍家兵法師範役吉岡清十郎を撃つものと倒し、さらし弟の伝七郎をも倒し、そのため吉岡門下と二乗寺の下り松、決闘したのは二十一歳のときで、激流島で佐々木小次郎と戦ったのは二十九歳のときだったといふこと。
ところが、そのあとがなぜか齷齪としてわからないのです。
そして晩年、小倉に来て、島原の乱では小倉城主小笠原忠真の軍師として従軍し、三年後、熊本城主細川忠利の招きに応じて熊本へ入り、客分として遇され、居宅を賜つたというのが自分で言っている

るのです。それは毎日毎日の鍛錬にしかなく、言っているのです。
私には八年ぐらい合気道を通四回稽古していますが、出張で一週間も稽古しないやうな後退しますね。矢張り続けることが目です。継続は力なりと言いますが、継続しているうちに、自分では余り進歩しているやうに思われないのですが、それが三年、五年とたつ

頼れるのは自分だけ

さきに序文で、「兵法の利にまかせ、諸雲・諸龍の道となせば万事において我に師匠なし」と言っています。
武蔵が自ら書いたのはあくまでも剣の道に限ったことであつて、絵画や彫刻や書に非常に通じてはいたが、それを志したのではなかつた。
剣の道の究極を極めた者が到達できる至境において、絵画や彫刻や書をたしなむに過ぎないと言っているのです。
結論的に言へばこの通りかも知れませぬが、その境地に到達するまでには大変な苦悶があつたのではないかと思ひます。或いは剣の道への一点の疑念が武蔵をして絵画や彫刻や書に向かわせたのかも知れませぬし、心の乱れ、剣の乱れを押さえることができないのではないかと考へてやつたのかも知れませぬ。

智目を養え

そして、剣の道を極めることによつて天の理を知り、芸術も処世も他のことも、天の理に合つてやればよいのだと気がついたのが五輪書であったのではないかと思ひます。その境地が、「兵法の利にまかせて諸雲・諸龍の道となせば万事において我に師匠なし」といふ言葉になつたのではないかとと思ひます。
とくに重要なのは、「万事において我に師匠なし」といふ言葉です。孤絶の生涯を、他との戦いで自己との戦いを通じて生きてきた武蔵には、師匠を必要としなかつたのでしよう。荒野の中から生まれた武道の行者は、自分の体験だけで武道の至道に極めたのでしよう。「我に師匠なし」と言い切つた武蔵の態度は、決して傲岸不遜な態度ではなく、徹底的に自己のみを信じて生きてきた男の声なのです。
そして序文の最後には、「今此書を作るといへども、仏法・儒道界で頼れるのは自分だけしかない」といふ言葉が、軍記・軍法の本質を明らかにするに似て、自分の全生涯を通じて神仏に頼つたこととは、一度もありません。この三つは、一度もありません。この三つは、一度もありません。この三つは、一度もありません。

(前頁より)

これは武蔵の生き方の根本をなすもので、役に立たないものは一切しない。「まず太刀をとりは

いずれにしてなりとも敵を斬る事也」と言っています。

よく、武蔵には道がある、哲学がなければならぬ、その哲学の上に武蔵道がある、と言いますが、それは嘘ですね。武蔵に徹してきて哲学が生まれるのならわかりますが、……。

その一番悪い例が柳生流の武蔵道です。殺人剣・活人剣という柳生流の極意がありますが、禅と仏教の言葉で飾っています。その師匠は沢庵という人ですが、本当に強くないと、人間は飾るものなの

です。それに、柳生流は止め流、他流仕合ができません。柳生但馬守宗矩という人は、剣道の師というよりも、大名を監察する役目をしていただけですから、政治家であつて、今の警視總監みたいなものです。剣道そのものからすれば子供の柳生十兵衛の方が余程強かつたと言われていますが、そういう強い剣を持つことが根本であつて、禅や仏教の言葉で哲学的に説く理出はなにもないので、それを武蔵が言つたのです。要は相手を斬ればよいのだというのが、武蔵の哲学の根本なのです。

構えについても、五つの構えを説いていますが、「いすれのかまへなりとも、かまゆるとおもはず、きまる事なりとおもふべし」と言っています。どんな構え方をしてもかまわない、それは手段であつて目的ではない、目的は相手を斬ることにあると言っているのです。ところが、往々にして構えが目的のためにあつてしまつて、

それを学ぶためにエネルギーの大半を使つているが、それは主客を倒して、目的は相手を斬る以外にならなかつたのです。

それから、戦つときの心の持ち方をどうしたらよいかというところを説いていますが、平常も戦いの際にも少しも姿勢をよこす、心をひろひ、まっすぐにして、緊張することなく、少しも怠らぬ心でいかに保ち、その流れが一時も止まらぬように、よくよく注意しなければならぬ、と言っています。一寸なんのこただかわからない、ころもありませんが、要するに、真剣勝負のときにも平常心でなければならぬといつておしまひ。

これはなかなかむづかしいところで、竹刀なら跳び込めても真剣ではなかなか跳び込めません。それは心が硬直しているからです。もつと言えば、真剣勝負では相手の目の動きが見えにくくなり、身体の動きも悪くなり、なにがなんだかわからない一瞬のうちに殺されていくか、殺しているかのどちらかです。

よく百人斬りと言いますが、とんでもないことで、百人も斬れるわけがありません。昭和新刀だと三人も斬れば刀が鈍つてしまひます。また、一人斬つても身体が硬直してしまつて、指から刀を離すこともなかなかできません。

そういう心と身体を、如何なる場合にも平常と変わらないようにするには、武蔵は朝鍛夕錬、毎日毎日の稽古しかないと言っているのです。

それから、沢庵禅師も心を一か所においてはいけぬと盛んに言っています。心を一か所におくと、全体が見えなくなるからです。相

手の眼に心をこぼすと眼だけしか、刀におとすだけしか見えなくなつて、全体が見失つてしまふ。絶対に一点だけに固着してはいけません。一点を見ながら全体をつかむ眼を養わなければいけないと言っています。心も、息も、目も、相手を養つていなければいけません。これを武蔵は、近ごろを遠

い、遠いところを見よといひ、自分の余命の残り少なくなつて見よといひ、自分の眼に五輪書を書くわけですが、一寸知のよに五輪書は兵法の奥義を説いたもので、死んで七日前に簡条書まで簡略に自分の人生観を説いたのが、独自の道です。

武蔵は、熊本市の西郊、金峰山にて後悔の連続です。あれは、うすればよかったとか、あつたればよかったとか、後悔するところが多いのですが、武蔵はどんなことがあつても後悔しないと言っているのです。

武蔵は役に立たないこととはしないという徹底した実利主義者です。から、後悔するのは無駄であると思つて、後悔してはならない、命をかけて生きている者にとっては後悔は必要ありません。

永禄三年、織田信長は桶狭間への出陣に當つて、清洲城で幸若舞の教陣の一節、
人間五十年
下天のつちをくらがれば
夢幻のごとくなり
一度生を得て
滅せぬものあるべきか
を舞ひ、奇襲の成功で今川義元を討ちとり、歴史的逆転劇を演じたのですが、それから二十二年後、本能寺においてまさしく諷の如く人生五十年(四十八歳)で死んでしまひます。

生者必滅の道理は仏教でも説いていますが、信長はこの諷を熱愛して、人生を夢幻と観し、その時を時に命をかけて生きたのです。命をかけて生きている者には、死ぬ時は死ぬ、たまたまだけです。一度めれば人間はただ死のうへは一定(いちじょう)、それだけのことで、母親の胎内から生まれた人間は、ただ死ぬ目線に向つて生きていくだけです。

我、事において後悔せず

武蔵は、熊本市の西郊、金峰山にて後悔の連続です。あれは、うすればよかったとか、あつたればよかったとか、後悔するところが多いのですが、武蔵はどんなことがあつても後悔しないと言っているのです。

武蔵は役に立たないこととはしないという徹底した実利主義者です。から、後悔するのは無駄であると思つて、後悔してはならない、命をかけて生きている者にとっては後悔は必要ありません。

永禄三年、織田信長は桶狭間への出陣に當つて、清洲城で幸若舞の教陣の一節、
人間五十年
下天のつちをくらがれば
夢幻のごとくなり
一度生を得て
滅せぬものあるべきか
を舞ひ、奇襲の成功で今川義元を討ちとり、歴史的逆転劇を演じたのですが、それから二十二年後、本能寺においてまさしく諷の如く人生五十年(四十八歳)で死んでしまひます。

生者必滅の道理は仏教でも説いていますが、信長はこの諷を熱愛して、人生を夢幻と観し、その時を時に命をかけて生きたのです。命をかけて生きている者には、死ぬ時は死ぬ、たまたまだけです。一度めれば人間はただ死のうへは一定(いちじょう)、それだけのことで、母親の胎内から生まれた人間は、ただ死ぬ目線に向つて生きていくだけです。

武蔵もまた命をかけた兵法者であつて、いつ敵に斬り殺されてもよかったのです。我、事において後悔せず、というのには、真剣勝負で一瞬のうちに命を失つても後悔しないと言っているのです。これは、毎日毎日、そのときどきに自分の力を出し切つていなければいけません。自分の力に余力があれば後悔します。

道元の人生観

以上、武蔵のことをいろいろ申してしまつたが、道元のことにも触れてみたいと思ひます。道元は、中国で禅を学び、それを日本に持ち帰つて永平寺を修業道場として開いた方で、五十四歳で今言、師結後で死んでおられ

ます。公卿の出身で身体が余り丈夫なかつたのでしよう。この人の人生観もすばらしいのです。彼がよく言つたのは、世の中は無常で泡沫みたいなものである。人生は水の上に浮ぶ泡(あわ)みたいなもので、あつという間に消えていく、それを先ず認識せよと云うのです。

人生が水に浮ぶ泡みたいなものならば、人間は生きなければならぬ、か、その生き方は二つしかない、その一つは快樂主義で遊んで、適当に楽しく快樂を充たして遊んで人生を終る事です。もう一つは、本心に修業して何かを求めて生きていく事です。道元は後者を選んだのです。人生は時間に限られているから、今日一日を一生懸命に修業してしまふ、悟つたらからといって、何ものにも捉われない自在の境地を切り開かなければならない、と云っているのです。

われわれ凡人は困つた時に神仏に頼りたがりです。しかしそれは本当の宗教ではありません。宗教の極まるころは武蔵の境地でなければなりません。神仏は助けられなくても、決してそれに頼らない、懸命に修業してしまふ、とい

な形を変えて生かされなければならぬと思ひます。それによつて人生の困難に打ち勝つ道を見出すことができるのではないかと云ひます。

道元の人生観

以上、武蔵のことをいろいろ申してしまつたが、道元のことにも触れてみたいと思ひます。道元は、中国で禅を学び、それを日本に持ち帰つて永平寺を修業道場として開いた方で、五十四歳で今言、師結後で死んでおられ

ます。公卿の出身で身体が余り丈夫なかつたのでしよう。この人の人生観もすばらしいのです。彼がよく言つたのは、世の中は無常で泡沫みたいなものである。人生は水の上に浮ぶ泡(あわ)みたいなもので、あつという間に消えていく、それを先ず認識せよと云うのです。

人生が水に浮ぶ泡みたいなものならば、人間は生きなければならぬ、か、その生き方は二つしかない、その一つは快樂主義で遊んで、適当に楽しく快樂を充たして遊んで人生を終る事です。もう一つは、本心に修業して何かを求めて生きていく事です。道元は後者を選んだのです。人生は時間に限られているから、今日一日を一生懸命に修業してしまふ、悟つたらからといって、何ものにも捉われない自在の境地を切り開かなければならない、と云っているのです。

われわれ凡人は困つた時に神仏に頼りたがりです。しかしそれは本当の宗教ではありません。宗教の極まるころは武蔵の境地でなければなりません。神仏は助けられなくても、決してそれに頼らない、懸命に修業してしまふ、とい

な形を変えて生かされなければならぬと思ひます。それによつて人生の困難に打ち勝つ道を見出すことができるのではないかと云ひます。

また、道元は、「知識・経巻の教えを待つべからず」と言っています。知識とは全知識即ち師匠のことで、人の教えを待つてはいけません。自分で進んでやらなければいけないと言っているのです。そして、「明日ありと期待してはいけません。今日だけしかないので、今日に全力を出して修業しなければいけない」と言っています。

(次頁へ)

(前頁より)
過ぎないのです。また、未来は希望に過ぎないのです。明日ありと

流水腐らず

中国の古典医学に、『流水腐らず』という言葉があります。流れている水はいつも清らかですが、流れなくなると水は腐って、魚も住まなくなり、人間も心も、いつも流水の状態におかなければいけないと言っているのです。

女の方が男より寿命が長いのは、女は家庭にいても流水の状態にあるからです。絶えず身体を動かしているからです。勿論、最近では女の方でテレビを見ながら酒を飲んで、なんにもしない方もおられるのですが、しかし大体において、掃除に洗濯、炊事に寝床の上げ下げ、その他「ま」とした雑用など、それに、亭主が「新聞持ってきてい、お茶持ってきてい」と、その都度立ちます。絶えず身体を動かしています。男は坐ったまま、余り動きません。女の方は男より身体を流水の状態にしています。

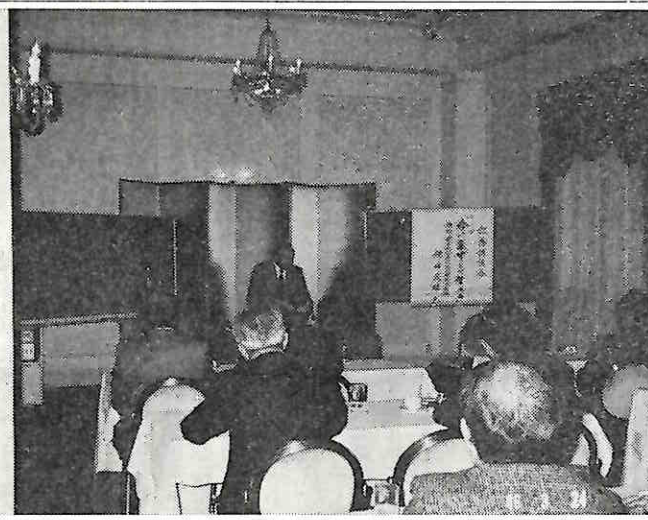
むづかしいのは、心を流水の状態におくことです。宮本武蔵が言ったように、心を一点に固めてはいけません。

心を一点に固めますと、それは一点ではなくて大きく見えてきて、いわゆる癖になり、駄目だ、駄目だ、俺は駄目だ、といつことになり、これは忘れるようにしていかねばなりません。忘れるようにするために、忘れようと思ったら余計に思い出します、身体を動かすことで、

思ってはならない、今に全力を尽すべきであるというのが、道元の考えです。

時間を生活の中に組み入れないと、名な本堂僧になったという話が残っています。少しづつでもよいのです。さきにして、心と身体を絶えず流水の状態にするまで、精進願えたらと思

私も午後五時、仕事をし、六時に合気道の道場へ行きます。大本の中にも、精進することが大切である。それは、少くも水の常



合気道をやり、と怪我します。やる時には何もかも忘れて、まです。そして猛烈に汗を流します。新陳代謝して、汗のいろいろなこと、全部頭から消えています。そして、汗を軽く舐め、寝れば、朝起きたときはなんにも残っていません。今日はやるぞと思っかけて、

忙しい人ほど、激しくあれば、おぼろげに、身体を動かして汗を流す。教習進化したといっているのは、

と悟り、その後大いに精進して有名な本堂僧になったという話が残っています。少しづつでもよいのです。さき

これはエネルギーを少しづつ出せばよい、ということではありません。これは、勉強も、継続も、意味で、エネルギーは全力投球しなくてはならないのです。

禪に、『金毛の獅子』という言葉があります。普通の獅子は大きな象にとびかかるときは全力を傾注しますが、兎や車をとるときは全力を傾注しません。ところが、この金毛の獅子は兎や車をとるときも全力を傾注します。

これに別の仏教の言葉で、『菩提心』という言葉があります。宮本武蔵は斬るに、道元は仏の道を実践するために生命をかけている、それは菩提心です。

人とともに 住するも一人なり

佐藤一帝という方がその意志四録の中に、『若して字はは社にして成すあり、社にして字はは老いて衰え、老いて字はは死して朽ち』と云っておられます。

これは学問だけのことを言っているのではありません。事業もそうだし、あらゆる職業の人に通じる言葉です。老いは人間として避けられないことです。老いては社にして字はなかつたから、老いては老いて衰え、老いては死して朽ち、それは死ぬということ、一番確実なのは死ぬということ、

自分がこの世に生まれ出てきたそのときから、何よりもはつきりわかっているのは何かと問われても、真くはなかなかな答えられませんが、それは死ぬということ、一番確実なのは死ぬということ、

ところが、この当り前のことがよくわかっていないのです。この一事を絶えず念頭に置いて、一日一日を生きていくことが肝要なのです。この一事を普賢菩薩の心、政治家は政治家なりに、経営者は経営者なりに、労働者は労働者なりに、学者は学者なりに、宗教家は宗教家なりに、それぞれが己の本分を尽すことです。道元が言ったように、明日ありと期待してはいけません。今日という日を大切に、一生懸命生きなければならぬのです。

これはならないのです。一遍上人は、『生ぜし一人なり、死するも一人なり、されば人となり、死するも一人なり』と云っています。これもよい言葉です。

一遍のように、晩年は多勢のお弟子さんに囲まれ、彼が死ぬと、七百人ぐらいの人が入水自殺をしますが、そういう中にも、一人一人とも住するも一人なりと云っているのです。家族と一緒にいても、友人とも一緒にいても、窮極は一人だと言っています。

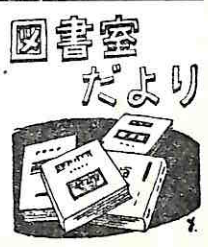
このこと、先程申し上げました死は必定ということ、しっかりと死に臨んでいなければ、その人なりに、人間はどう生きなければならないかということが、わかっていただけたらと思います。

いろいろお話し上げましたが、これからの人生を生きていく上にも、また、お仕事のうえにも、なんらかの参考になれば、そう願っています。一筆ありがとうございました。(六一・三二・三三)

四、末期第六回通常総会記念講演会(録音テープ)

経営ウイクリー テレビ番組予定

- 毎週日曜日午前七時からテレビ東京(十二チャンネル)で放送している「経営ウイクリー」の八月・九月の番組の予定は左のとおりです。(一覽下さい)
- 八月三日(日) 「経営セミナー」① 客は大衆から分衆の時代へと変化したと言われている。こうした時代に対応できる発想法を考へる。
- 八月十日(日) 「夏の経営セミナー」② 良い物を安く売る時代から気分を売る時代へと変化した。消費者を生活者の立場、ユーザーの発想に立つた商品とは。
- 八月十七日(日) 「夏の経営セミナー」③ 田高をテリットトとして、かちとらえるのではなく、そのテリットをいかに吸い上げるかその発想法。
- 八月二十四日(日) 「夏の経営セミナー」④
- 九月七日(日) 「経営指導員Aさんの一日」(経営指導普及事業) Aさんの一日の行動を通じての事業の紹介。
- 九月十四日(日) 「クリエティブシティ東京」常に創作的活動を行っている東京の中小企業者を紹介する。立脚、ユーザーの発想に立つた商品とは。
- 九月二十一日(日) 「真心を世界に届けるパッケージ」紙器・タンボール箱製造業の体質強化。
- 九月二十八日(日) 「東京クリエティブシティ」国際シンポジウムやドキドキ東京フェアなどの紹介。



左記の図書が新しく入りまして、お知らせします。

組合事務所の手帳にあり、自由にお覧下さい。貸出しもいたします。

記

- 「東京都中小企業の経営・原価指標」(昭和六十年度版) 東京都商工指導所編
- 「今に集中して生きよ」 東大教授 鎌田茂雄著
- 「信念と腕力」(限界を打破する企業家の精神) 作家 小島 直記 著
- 「学卒者の雇用と賃金」 大森職業協会編
- 「大地を往く」 東大教授 鎌田茂雄著
- 「大田区における高度工業集積の課題」(昭和六十一年三月) 大田区 編
- 「中小企業のための金融の手びき」 大田区 編
- 「労政時報」 海外出張旅費(主要三二四社の最新実態) 男女雇用機会均等法。時間外労働に関する各種取扱いの実態。マイカー通勤と業務上使用の取り扱い実態。六十年モデル条件別新賃金と昇給配分。産業別・地域別・職種別の実在着賃金。現行モデル賃金の水準はどのくらいか。

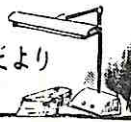
(次頁へ)

(前頁より)

最近における簿記見舞金の給付状況
業務・通勤災害に対する法定外補償の現状
六十年途中途採用者の賃金はどれくらいか。
産業別・規模別にみた福利厚生賃の実態。
国内出張旅費の規模別・業種別実態。

移 転

組合員だより



恩田鉄工株式会社 (大田区南六郷三二一) 代表者武井武氏では、去る一月三十日左記へ移転されましたのでお知らせいたします。

大田区昭島西ノ四 電話七六八七四四八
株式会社内田製作所 (大田区東糺谷五一七-一八) 代表者内田正勝氏では、去る三月二十四日本業務社を原不町 移転されましたのでお知らせいたします。

したのでお知らせいたします。

移転先
神奈川厚木市上夜知三〇二
電話〇四六二一八五一一二
FAX〇四六二一八五一一八
有限会社連活機械製作所 (大田区西蒲田六ノ五ノ四) 代表者佐久間庄吉氏では、去る四月一日左記へ移転されましたのでお知らせいたします。

移転先
大田区城南島二ノ三
電話七九〇〇八八二二〇
FAX七九〇〇八八二三〇
株式会社マコメ研究所 (大田区鶴の木二ノ三七ノ五) 代表者榎村三良氏では、去る四月二十五日本社を左記に移転されましたのでお知らせいたします。

は、去る六月十六日左記へ移転されましたのでお知らせいたします。

移転先
神奈川厚木市那珂川町中津八二四、二四三三〇三
電話〇四六二一八六一一一
FAX〇四六二一八六一〇五
組織変更
有限会社松原製作所 (大田区南蒲田一六六一八) 代表者松原清一氏では、昨年暮の十二月十日付をもって組織を左のとおり変更されましたのでお知らせいたします。

代表者変更
赤井電機株式会社 (大田区東糺谷二二二-一四) 代表者勝正氏では、この二月、代表者が左のとおり変更されましたのでお知らせいたします。

新代表者 岡田 真 氏

坪根市蔵氏 株式会社弘機商会 (大田区蒲田一四一六) 代表者坪根市蔵氏は、去る十二月二十四日、急逝されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

すとも、氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。

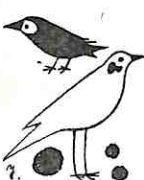
お祈り申し上げます。
河原五郎氏 河原テント株式会社 (大田区東蒲田一二二-一四) 代表者河原祥浩氏、弟河原五郎氏はかねてより、病氣療養中のごころ、薬石効なく、去る昭和六十一年十二月二十七日、逝されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

中條ハル氏 株式会社中條電機製作所 (大田区大森南一七-一) 代表者中條彰氏、母中條ハル氏は、永らく、病氣療養中のごころ、薬石効なく、去る一月十四日、逝されました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

業 報

四月商業手形割引取扱高
二八、三〇二、〇七六円
五月商業手形割引取扱高
三二、〇〇〇、〇〇〇円
六月商業手形割引取扱高

ことばの泉



中元の日(前後)の季節的贈答のことを意味していますが、そのもとは中国に発生した道教神の信仰にもとづく宗教的行事に起

御 中 元

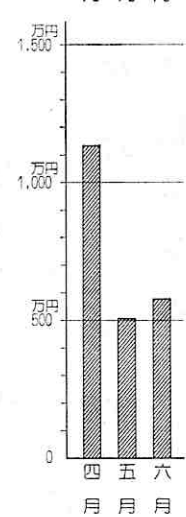
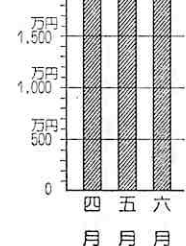
毎年夏になると、デパート、商店街はお中元セールで大忙しです。
中元といえば、現在では単に「青・中国(唐・宋)のころで、道教神信仰に対する信仰が広く行なわれ、三官(天官、地官、水官)の三神のことで、天官は幸福の神で主元(正月十五日)の生まれ、地官は愛の神で主元(七月十五日)の生まれ、水官は水難火難の守護神で主元(十月十五日)の生まれと考えられて、盛んなお祭りが行なわれて

- 二五、二八九、〇〇〇円
- 四月共同購入業務取扱高
一、三六四、八四〇円
五月共同購入業務取扱高
五、〇〇三、九七九円
六月共同購入業務取扱高
五、八五〇、〇四〇円
四月二日 定例経営サロン(木鶏会)
主話 議題
業種転換について。
近況について。
自動車業界について。
アルミ鋳物業界について。
プレス業界について。
自企業の特徴について。
下請業のメカ指向について。
- 四月十日 機関紙「工業蒲田」速報発行
主話 議題
昭和六十一年度設備近代化資金融貸について。
昭和六十一年度東京先端技術設備貸付制度について。
昭和六十一年度東京都中小企業のための設備貸付制度について。
自動車ローンは組合。
四月十三日 懇親ゴルフコンペ(木鶏会、於中野原ゴルフクラブ)
四月十四日 常任理事会
1、昭和六十一年度事業報告について
2、昭和六十一年度決算報告について
3、昭和六十一年度剰余金処分案について
4、昭和六十一年度事業計画案について
5、昭和六十一年度収支予算案(賦課金額並びにその徴収方法を含む)について
6、昭和六十一年度借入最高限度額について
7、昭和六十一年度一組合員に対する貸付最高限度額について
8、昭和六十一年度手数料最高限度額について
9、定款一部改正について
10、任期満了に伴う役員改選について
11、理事会開催日時について
12、第三十七回通常総会開催について
四月十五日 青年部経営サロン(木鶏会)
主話 議題
業況と昇給について。
従業員教育について。
役員報酬について。
売上高対支払利息比率について
四月十七日 懇親懇話会(木鶏会、於大田区産業会館)
四月二十三日 昭和六十一年度中小企業設備近代化資金融資説明会
五月七日 定例経営サロン(木鶏会)
主話 議題
会社の解散と税金について
土地・金銭等の移動には先ず税金対策を考へてから。
不況の長期化に対する考え方。
四月十九日 機関紙「工業蒲田」速報発行
主話 議題
中小企業者の新製品・新技術開発に助成金
短期技能講習会「品質管理」
地方税制が改正されました。
自動車ローンは組合。
五月十二日 理事会
1、昭和六十一年度事業報告について
2、昭和六十一年度決算報告について
報告書と折り金員異議なく可決決定。
3、昭和六十一年度剰余金処分案について
4、昭和六十一年度事業計画案について
5、昭和六十一年度収支予算案(賦課金額並びにその徴収方法を含む)について
6、昭和六十一年度借入最高限度額について
7、昭和六十一年度一組合員に対する貸付最高限度額について
8、昭和六十一年度手数料最高限度額について
9、定款一部改正について
10、任期満了に伴う役員改選について
11、理事会開催日時について
12、第三十七回通常総会開催について
五月二十九日 第三十七回通常総会
主話 議題
兄弟・身内等社内役員との関係について。
TQC講演会から。
景気の見通しと対策について。
五月二十九日 第三十七回通常総会
1、昭和六十一年度事業報告承認の件
2、昭和六十一年度決算報告承認の件
3、昭和六十一年度借入最高限度額承認の件
4、昭和六十一年度一組合員に対する貸付最高限度額承認の件
5、昭和六十一年度剰余金処分案承認の件
6、昭和六十一年度事業計画案承認の件
7、昭和六十一年度収支予算案承認の件
8、昭和六十一年度手数料最高限度額承認の件
(次頁へ)

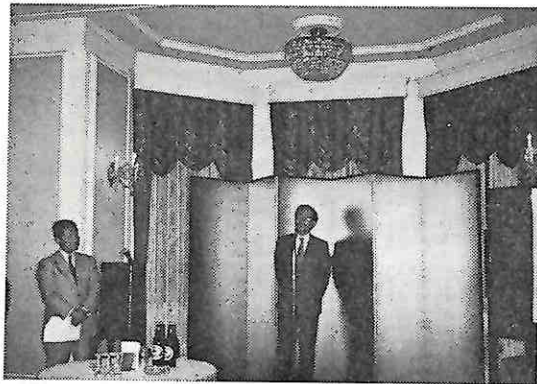
(前頁より)
 度決定の件
 昨年度より金融事業は年一・四六%、共同購入事業は二〇%とする。ことに満場異議なく可決決定。
 9、定款一部改正の件
 第五十八条を左とわり改正することに満場異議なく可決決定。
 第五十八条 本組合は職員の退職給与にあつては、毎事業年度ごとに、職員退職給与規定に基づき、職員の給与総額の五分の一以上を、次の各号のいずれかの方法により計上し、又は払込むものとする。
 (1) 退職給与引当金による方法
 (2) 中小企業退職金共済契約による方法。
 (3) 前二号併用による方法。
 10、任期満了に伴う役員改選の指名推薦制の方法、理事・監事を選挙することとなり、役員選挙委員を挙げ選挙の結果を総会に諮り、満場異議なく左のとわり

可決決定。
 理事(五十首順、略敬称)
 赤井弘志(赤井製作所)
 尼寺春一(尼寺荘工業)
 石森憲蔵(東電舎)
 市川宗敏(日本中空銅)
 内田卯助(内田製作所)
 岡田清(岡田鋳金)
 川瀬一(清川製作所)
 杉谷順弘(杉谷金属工業)
 竹中 稔(竹中機械)
 千葉 博(太座工業)
 富田耕平(日伸製作所)
 島海保男(島海製作所)
 長坂基秀(長坂精機)
 西ヶ谷勝美(東京精密器具)
 西野三郎(西野機械工業)
 野口 広(羽田パイプ)
 早崎孝一郎(早崎製作所)
 古川一安(古川機械)
 戸上皓司(事務局)
 以上十九名
 監事(五十首順、略敬称)
 海老名正教(エヒナ電化)
 豊間 厚(気球製作所)
 以上二名
 五月二十九日 理事会

1、役員理事互選、顧問・会計主任選任の件
 左のとおり決定(五十首順、略敬称)
 顧問 新海 衛
 顧問 野口 忠爾
 副理事長 千葉 博
 理事長 石森 憲蔵
 常任理事(岡田) 清
 常任理事 赤井 弘志
 常任理事 内田 卯助
 常任理事 杉谷 順弘
 常任理事 西ヶ谷勝美
 専務理事 戸上 皓司
 会計主任 正田 竜三
 2、金融評定委員会委員互選の件
 1、役員理事互選、顧問・会計主任選任の件
 左のとおり決定(五十首順、略敬称)
 五月二十九日 講演会(研究会)
 テーマ「信を心腕力」
 (副題「限界を打破する企業家の精神」)
 講師 作家 小島 直記氏
 五月二十九日 懇談会懇親会(於蒲田工業会館)
 六月四日 正副会長会議(木鶏会)
 1、パイオテック見学先について
 奈川県庁、静岡県庁、日経パイオテック編集長宮田満氏訪問経過報告。
 2、見学先決定について
 左のとおり決定。
 若年労働者の採用・定着と高令者の退職について。
 六月九日 景況調査
 クミン株式会社。希望日時 六月十日 景況調査
 六月十一日(金) 六月十一日 朝食会(木鶏会)
 (十七)。
 相続について
 六月十七日 青年部経営サロン(木鶏会)
 テーマ「二十一世紀の日本経済と中小企業」
 講師 慶応義塾大学教授 加藤 寛氏
 六月二十三日 常任理事会
 1、中政協貸付金拠出方について
 二万円支出することに決定。
 2、職員夏季手当について



木鶏会第八回通常総会懇談会にて



組合第三十七回通常総会懇談会にて



暑中お見舞申上げます

蒲田工業協同組合 (五十首順)

顧問	新海 衛
顧問	野口 忠爾
理事長	千葉 博
副理事長	石森 憲蔵
常任理事	岡田 清
常任理事	赤井 弘志
常任理事	内田 卯助
常任理事	杉谷 順弘
常任理事	西ヶ谷 勝美
常任理事	市川 春一
常任理事	川瀬 純一
常任理事	竹中 稔
常任理事	富田 耕平
常任理事	鳥海 保男
常任理事	長坂 基秀
常任理事	西野 三郎
常任理事	野口 広
常任理事	早崎 孝一郎
常任理事	古川 一安
常任理事	戸上 皓司
専務理事	海老名 正教
会計主任	正田 竜三
監事	豊間 厚

暑中御見舞申上げます

蒲田工業協同組合負有志

(五十音順)

機械器具製造業

- 株式会社 旭川製作所
- 尼寺空圧工業株式会社
- 岩佐工機株式会社
- 合資会社 大津鉄工所
- 金勝産業株式会社
- 坂口精密工業株式会社
- 秀和工業株式会社
- 昭和精密工業株式会社
- シンドー工業株式会社
- 株式会社 竹中機械製作所
- 炭研精工株式会社
- ティ・ヴィ・バルブ株式会社
- 東 亜 株 式 会 社
- 株式会社東京精密器具製作所
- 株式会社 鳥海製作所
- 長坂精機株式会社

日本ギアイン無段変速機株式会社

- 有限会社 蓮沼機械製作所
- 有限会社 早崎製作所
- 深尾精機株式会社
- 藤田工業株式会社
- 株式会社 藤原製作所
- 合資会社 古川機械製作所
- 株式会社 文化精工
- 株式会社 妙 徳
- 株式会社山田精機製作所
- 電気機械器具製造業
- 出雲電機株式会社
- 株式会社 小林電機製作所
- 太産工業株式会社
- 株式会社 東 電 舎
- 株式会社 中山電機工芸社
- 永森電機株式会社

輸送用機械器具製造業

- 荏原工業株式会社
- 株式会社 大谷造機所
- 株式会社 東京ドスピル製作所
- 西野機械工業株式会社
- 株式会社 日伸製作所
- 株式会社 ユタカ製作所
- 金属製品製造業
- 江崎工業株式会社
- 佐々木発条株式会社
- 第一シャーリング工業株式会社
- 有限会社 巴 精 工 所
- 同和発条株式会社
- 株式会社 羽田発条製作所
- 株式会社 羽田パイプ製造所
- 有限会社 富士精機製作所
- 鍛 造 業
- 恩田鉄工株式会社
- 有限会社 武藤鉄工所
- プレス・鋳金業
- 株式会社 赤井製作所
- 株式会社 内田製作所
- 岡田鋳金株式会社

株式会社 清川製作所

株式会社 清水鉄工所

株式会社 滝口製作所

日本中空鋼株式会社

株式会社 蛭田電機製作所

製 罐 業

株式会社 新井久四郎鉄工所

エビナ電化工業株式会社

株式会社 三協アルマイト

鑄物製造業

有限会社 京浜鑄造所

杉谷金属工業株式会社

そ の 他

有限会社 青木製作所

河原テント株式会社

株式会社 気球製作所

有限会社 桑島印刷所

株式会社東京ハードフェイシング

株式会社 日 章 機 械

有限会社 古川塗装工業所

宮永化学工業株式会社